

平成29年度 米子高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

米子高校は、昭和48年1月に普通科高校として二つの高校を統合し設置され、平成10年4月に総合学科に学科改編した45年の歴史を有する高校である。平成9年以前は定員割れを起こす等教育困難校であったが、現在は総合学科の特長をいかし、6系列を設置し生徒の個性・能力の伸長、地域に貢献する人材育成に実績を挙げ、地域に信頼される学校として高く評価されている。近年は校訓「協力」「創造」「理想」を掲げ、学校長の強いリーダーシップにより、全教職員一丸となって、確かな学力の育成、豊かな人間性の育成、自己実現のための進路指導、積極的な地域連携と情報発信を行っている。それら取組の評価として、「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞した。卒業生の進路は、平成28年度の大学進学者数が2年前の2倍、進学率は全体の70%となっている。また、就職も高水準を維持している。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 一部で導入されているアクティブ・ラーニングやPC、タブレットを併用した授業は、今後益々有益となる手法であり、生徒の「学ぶ喜び」増大につながると考えられる。
- ② 豊富で充実した学校独自事業における地域連携プログラム、社会人講師による数々の講演及び実技講習の実施は模範的といえる。
- ③ 遅刻確認票を導入した指導強化で遅刻者が大幅に減少したことは、校内が活性化された教育環境となり、社会人教育にもつながる価値の高い改善である。
- ④ 平成28年度から手話パフォーマンス甲子園への参加、平成30年度から3年次授業科目「手話」導入計画等、県内において先駆的であり継続を期待する。
- ⑤ 毎朝始業前に行われている朝読書において、開始前に音楽を流す取組は画期的であり、生徒の心に余裕を与え、図書館利用の動機付けにもなり、高く評価できる。
- ⑥ 見やすく、わかりやすい学校要覧、学校だより等の情報発信物においては、生徒のデザインや作品を採用し、総合学科の特色ある活動を紹介する場となっており、保護者や地域から学校への理解を高めるものになっている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 学校安全・危機管理に関し、コンパクトで実効性の高いマニュアル化を望む。
- ② 外部指導者の部活動参加について、より一層適切な管理体制の継続を期待する。
- ③ 生徒の安全な通学のため、特に自転車通学時ヘルメット着用を推進していただきたい。